京城新聞

永住の意思

かく生

殖民の第一要義は永住の意思に有り、出稼と殖民の異なる所は實に此點にあり、從來邦人の出稼する者獨り米國に止まらず、遠く南洋諸島より西比利亞に及び、比年万を以て數ふるに足ると雖も、其殖民と稱するに足るものなし、宜なり邦人の殖民的能力に缺如せるや、韓の十三道到る處殖民に適せざるなく、邦人移住の地として世界他に比類なきの便益を有するに係はらず、尚ほ遲々として隔靴掻痒の感あらしむ、蓋し起因する處邦人のみの欠点たるに止まらず、東洋諸國を擧て此疾患なきに非ず、壯租の地墳墓の地等の語が、如何に儒教の影響を受けたる此東洋諸國に重きを爲すかを一考せよ、福建浙江の淸人が、能く出稼して能く歸り來るの事實、韓國人士が居常遊巡故里に綿々たるの事實、皆歸する所は此疾患に在り、元より情として祖先相承數十百年の地を離るゝの難き、之れを察せざるに非ず、義として親戚故舊に背き遠く距るの忍びざるものなきに非ず、率此情義あつて秩序あり、又平和あるの理なりと雖も、世は而かく溫しく靜止的の狀態を續くるものに非ず、或は帝國主義の美名の下に、呑噬の慾を逞しくせんとし、或は世界の平和を標榜して、自巳の羽翼を張らむとす、獨りかゝる政治的の壓迫のみならず、先きにはマルサスの人口論となり、次に富源開發の趨勢となり、東洋の安樂境は既に已に動搖の渦中に投せられぬ、此に於てか止むを得ざるの余に出でゝ出稼なる一時的便法を案出し以て世界の潮流に適はむとせり、是れ東洋人の性情として、至當の事なるべしと雖も、大に姑息の計たるを免かれず、故に東洋人の海外渡航なるものは、一種の病的發展に外ならずして、決して眞正の殖民と云ふ可からず、勞銀の爲めにするものにして、土地を基本とするものに非ず、一時の爲めにするものにして、永住の意思を欠く之と近世スラブの東方侵畧に鑑み、アングロサクソンの大發展に比せば、啻に霄壤の差のみにあらず、優劣の數目から明かなり民族として一國を經營し、一國として世界に比肩す、優劣既に定まつて尚存在し得る所以のもの、唯時の如何に關す、時到れば倒れ、時到らざれば存す、豈風前の燈と似たらずや、此危急を救ふは此疾患を醫するにあり、腹心の憂を去つて發展の健全を所るにあり、要は從來の信仰的愛鄕心を棄て、合理的の愛鄕心を養ひ、情實に拘はらず理性に就くに在り、知らず在留幾万の邦人諸士、克く永久土着の意思ある者幾人かある、眞理は平凡の裡に存す、韓國の計營を說いて邦人の永久移住に想ひ到らざるものなしと雖も、其進んで實行するものに至つては鮮少し、噫……商業家は一時の利に走り官吏は蓄財に焦る、土地を購ふものは轉賣せんが爲めなり、事業を營まんとするものは一攫千金を夢むものなり、或は過渡時代の現象として免かる可からざる所なりと云ふと雖も、滔々として風を爲すに至つては、吾人何れの日にか邦人發展の基礎確乎たるを認むるを得むや、元より永住の意志ありと雖も、周圍の事情之れを許すあるに非れば容易く行はれざるは明かなり、此に於てか種々の施設は必要を認められ、或は國家に因り、或は個人に依り、種々の計營を見るは、常に殖民史が繰返す事實にして、現に韓國に於ける狀態稍之れに類すと雖も、只形式に走つて必要の實質を欠ぐ[illegible]、而かも官府の干渉大に過ぎて發達の程度を伸はず、動もすれば却て沮害の結果を激らす、實に邦人に永住の意思なく、根本的施設をなすもの尠なき現今の狀態に於ては、當路者指導の如何は以て成否の問題を決定するに足る可く、大に此普通見易きの欠缺に向つて、注意を拂はざる可からざるや明かなり、吾人は在留邦人諸士に向つて永住の意思を抱懷せられん事を希望すると同時に、官府の施設が此點に干して多大の注意を拂ひ、徒に形式に流れず沒常識に陷らざらん事を切望す。

讀者文壇

●寄宿舎の記(二)　かへで生

晴れたる朝よ。

紺青の大空に、白き雲三つ四つ漂ふ。

溯らなきことに、花を咲かして喋々喃々を極めてゐるユー君、今朝の元氣なさは何事ぞ、昨日ケー君に言ひ込められて凹たれしが、さても脆きよな、よく喋べるの士、却つて寡言の士に敗らる、心すべきなりと。我は思へり。

夜十時歸る。

秋の夜の寂しきまゝに、偶然東都の妻を思ひ出しぬ、續いて女子を見たらカルボーなりと思へよ、とのワイ君の金科玉條を聯想せり、我は如何なる事情の下にも、妻を呼ぶまじと、再び思ひぬ、そは汚れなき妻に強ひて侮辱を與へることの堪へ難ければなり。

アイ君待てども又歸らず、我獨り寢床に臥す、セコンドの音、絶へ間なく刻む。

（廿八日夜）

●雜錄　南軒

◎理想と空想

理想とは何ぞや、空想即ち是也、ヨシ金言なる哉「お目覺めですか」アツ夢。

◎信友

貸せ「ナニツ貸すも貸さぬもあるものか」アツ持つて行きやがつたアハヽ……、此類が果して親友、思へ、此親友は三年を顧かない。

◎彼の聲は

風待月と云ふ程あつて、成程糸柳を鞭る風さへも寛衷ない今宵八日の月の影、露も光らず、蟲も啼かぬ、最と寂漠たる茲日本公園の片邊り、僕の異様な影に怖ちてか、不意に吹わた犬の一聲、遙かの彼方に……ジヨン……ジョン……ウム、彼の聲は……ジ人……否……乙女、然り、乙女……而も今宵の月に似たる

俳句

白露集

●三印

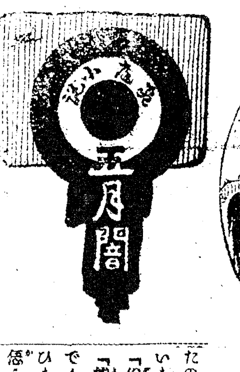
灯を配る宮司ありけり鹿の聲　田柿
水澗れて空の白みや秋の聲　松花
鷄頭やさびたる堂の賑かし　櫻水
雨烟る老人亭や草紅葉　田柿
迪り行く道なき村や草紅葉　櫻水
煤烟の上る野寺や草紅葉　田柿
初雁や消息如何に鄕の雲　三瓢
水深く穗芦伸びけり雁の聲　田柿

●五印

秋晴の樓に幾て踊く瀬笛哉　櫻水
古きほど案子に見ゆる案子哉　岡
物淋し春日の月に啼く小鹿　松花
巫女新ら中酒の社頭や秋の聲　可蝉
鷄頭に一首寄せけり何兄弟　田柿

●七印

秋雨や今洗ひたる島の影　三瓢
島一つ小窓に暮れて秋の雨　松花
戰に功あり不具の鴨子曳き　湖東
日の落ちて歸る子守や鴨子振る　櫻水





（三十）　川合柳葉

異つた侯爵の辭に、大山は怪訝な眼色で、

「何と仰せられます、名醫を招んでも到底治療が出來ないと仰せられますのはこの豊春には頓と了解致し難うございます、何處か名醫にも治し難い病症でも現はれましてございますか。」

「ハヽヽ貴樣にも困るなア然う通が利かなくては、醫學の進歩した今日名醫にも治療の出來ん病氣と云へは、大抵覺れさうなものだのに。」

主家の興廢を案じて、人もあるべきに大膽の末亡人と密通する程の大山が、斯ばかりの事も覺られぬ理はなく、扨はと思ひ當つたたのは、下様の者が謠ひまする俗謠にございます。」

「俗謠で覺つた、何と云ふ……。」

「能く下樣の者が「御醫者樣でも熱海の湯でも惚た病は治りやせぬ」と斯樣な唄を謠ひますが、今御前の仰せになりましたのも偲う云ふ御病氣ではあるまいかと考へましてございます。」

云ひ了つて莞爾笑へば、侯爵も同じやうに笑いながら、

「なか〳〵貴樣は面白い唄を知つて居るな實は其の唄のやうな病氣に罹つたので、うれで今朝は御膳も進まねば、運動に出る勇氣もなくて、何だか偲う異な心地になつて不愉快で堪らないのだ、この樣子で見ると病氣の保養どころではない、却つて病氣を重くしに來たやうなものだ、實に困つた事になつたわい。」

云ひ了つて太息を吐いた事のないではなけれど、何ほも空惚けた調子で、

「然う仰せられますと、ます〳〵恐縮致しますが、能く四百四病の外の病氣は耳に致した事もございますが、それは貧の病と申して下樣にこそあれ、上流社會にあるべき病ではございませず、其外には。」

と、寸時思案して、忽ち覺つたらしく勢ひよく丁と膝を拍ち、

「イヤ、これは恐れ入りました、通が利ぬと仰せらるゝも、更々御無理ではございません、漸く覺りましてございます、なる程へゑ、成程、名醫に治療の出來ん御病氣、イヤ御道理、へゑ成程。」

侯爵は何時しか沈んだ色さへ簸に復して、

「大く感心した樣子だが覺れたか。」

「ハイ、漸く覺りましてございます。」

「奈何覺つたか申して見よ。」

大山も些つと笑ひを含み、

「申上げますが、若も間違ひました節は幾重にも御赦しを願ひます……私の覺りまし

京城新聞

女大學排斥論

●●●●保守思想の發現●●●●

歷史は繰返す、明治十八九年の交井上馨、伊藤博文等が條約改正の爲に歐米列國の歡心を買はんとする政略として、盛に歐化主義を奨勵せり、時恰も社會の文物は新文明の光輝に浴し將さに發露せんとするときに會せるを以て、內外照應して盛に歐米の新文明は輸入せられたり、就中女子敎育の如きは靡然として勃興したりき、之れ社會の文明が昂騰するに從て來るべき必然の勢なり、唯だ時の政府の政策が導火線となりたるのみ、然るに保守頑固の一派は此傾向を觀て與黨し、日本女子の美風を破壞するとなし、鳥尾小彌太、谷干城等を先頭とし盛に之を攻擊し囂らす世の俗論に投合し、女子敎育に對し總に角を矯めて牛を殺すが如き狀態を呈したりき、之れ新進の勢が偶々守舊派を諮愕せしめたる所謂一の保守的反動なり、然れども大勢は抗すること能はす、爾來歐米女子敎育の必要は識認せられ從て女學生は增加せり、女學生の增加は云ふ迄もなく文明の新進に伴ふ必然の結果なり、男子の敎育のみ進步して女子の敎育が之に伴はざるは不具の社會なり、男子が歐米思想の感化を受けて女子の思想が依然として舊日本的ならば开も亦不具の社會なり列國との交通頻繁となり彼の文明を適用する時代に於ては男子は勿論女子も亦其思想の感化を受るは當然なり、列國間國交の頻繁なる今日に於て女子と雖も舊日本の女大學式の敎育に甘すべからず、女子敎育の勃興は即ち時勢の要求なり、假令多少の弊害が之に伴ふとするも此氣運を遮遏するは非なり、然るに都會に留學せる女學生が近時其操行を猥し墮落するもの尠からざるを見るや、例の守舊一派は張膽刮目囂々として新敎育を批難し、極端なるは女子敎育禁止論を唱る者さへあり、守舊頑固の徒より觀すれば女學生の墮落が新敎育にありと見ゆるならんも、之れ敎育の罪にあらずして社會の罪なり、見すや上流人士の操行の修らざる、其家庭の紊亂せる狀態、濁流は滔々として社會に瀰漫せり、此間に於て青春燃ゆるが如き青年男女に過誤あるは寧ろ當然なり、之を矯正せんとならば先づ社會上流の品性を高尙にし、其德風を普及せしむるも一の方法なり、親の品行修らずして其子を訓戒せんとするも効力なき也、青年男女が其身を誤るは自身の意志薄弱なるにも依るべしと雖も、其原因は淫蕩の風社會に橫溢するを以てなり、守舊派の杞憂慨歎する如く新敎育の罪にあらざるや明なり、然るに何事ぞや小松原文相迄が守舊派頑固派の俗論に加擔して女子敎育に對して反動的訓諭を爲さんとは曰く「近時一部社會の風紀漸く弛緩し青年女子の間にも動もすれば奢侈柔惰の風を生じ往々自己修養を努めずして徒に虛榮に馳せ我國古來の美風將さに廢頹せんとす」云々と喝破して舊女大學式を奨勵するの語氣を漏らし終に極端なる高等敎育排斥論となる曰く「特別の事情あるものを除きては漫に都府に遊學し高尙の學藝を修るの必要を認めず」と云ふに至れり、如何に保守派に對する機嫌取りとは云へ苟も文相としての訓諭には餘りに不謹愼なり要するに守舊派の觀察にては都會に遊學するを以て墮落の原因と見做すものゝ如し、之れ其觀察を誤れるなり、此等の女學生が鄕里に居れば斯る墮落はせざる可き乎、否れ染久松的情事は常に地方に行はるゝなり青年男女間の痴情的出來事は田舍に於却て多く行はるゝなり、村郞村娘が情交は頻守の森に字畠に稻扱納屋等に於て盛に結ばるゝなり、都會に遊學せざれば女子操行の墮落を防遏し得べしとなさば大なる誤謬なり村閭に於てすれば唯社會の表面に顯れずして濟むと云ふのみ、要するに女學生中に墮落者の簇出せるは新舊推移に於ける過渡時代の缺點なり、之に驚愕して高等敎育を遮遏せんとするは恰も昔者歐羅巴の諸王侯が十字軍を起して異敎徒討伐に出征せんとするに當り、軍人等は自己の不在中に妻女が操行を亂さんことを杞憂して巧妙なる淫部閉鎖器を造りて之に錠を卸したるの想にも似たらんか、曾て羅馬に於ては男子が女子の品性を跌躓するを防ぐ爲に男色を始めたりと聞く、此等も亦矯角殺牛的にして却て弊害を大ならしめたるなり、斯る偏屈極る矯正策は害多くして益なし、小松原文相の訓諭は亦之に類せずや、今の世に於て女大學式に依りて養成せられたる女性が能く男子に滿足を與へ得可きや、進步せる社會には進步せる女性を要す、女子敎育の必要は全く玆にあるなり、男子の玩弄物たるのみならば只柔順にても可ならん、然れども第二の國民の母たるべき女性には敎育なかる可らず、歐米の學問を咀嚼する能力なかる可らず、之れ子女を敎育し趣味ある家庭を造るに缺くべからざればなり。

東京電報

▲露官の橫暴

露國官憲は嫌疑ありと稱してハバロフスクの日本人武田某の居宅を檢擧し文書其の他を差押へたり

▲拓殖株式と議決權

東洋拓殖株式會社の株式は記名式とし議決權は一株毎に一個二千株以上は二十株毎に一個とす

▲拓殖役員の任期

東洋拓殖株式會社總裁副總裁理事の任期は五ケ年にして監事は二ケ年なり

▲拓殖の定時總會

東洋拓殖株式會社の定時總會は每年五月とす

▲拓殖重役の服務

東洋拓殖株式會社の總裁副總裁理事は當該國政府の許可を得るに非されば他の職務及商業に從事するを得ず(以上一日發)

雜報

●韓皇の水原行幸

韓皇帝には既記の如く昨日午前六時四十分昌德宮敦化門御出門東大門通鐵橋、鐘路、廣橋通、南大門通經順路無事同七時二十分南大門驛に着御あらせたり今其模樣を記さんに

▲鹵簿●● 皇帝には侍從院卿伊澤榮氏陪乘し馬車に投せらるゝや敦化門前宮內官以下の御見送を受けさせられ警視警部五騎の先驅にて我騎兵一小隊の儀仗にて順路南大門に向はせられ七時二十分同驛御着御先着の曾禰副統監、村田少將、石塚參與官其他日韓文武高等官等の迎を受けさせられ直ちに假便殿に入らせられたり此時韓國樂隊の奏樂あり

▲御發車●●● 宮廷列車は今や烟を吐いて御乘車を待ちつゝあり皇帝には小憩の後玉步をプラツトホームに移され奉迎の日韓文武官一同に御會釋あり靜かに車室に入らせられ供奉員一同陪乘し曾禰副統監以下統監府文武高等官一同乘車了るや同三十分汽笛一聲光榮ある列車は徐々進行を始め南を指して進行を續けたり

▲大皇橋着御●●● 皇帝には沿道の日韓官民の奉送迎を受けさせられつゝ同八時四十五分大皇橋臨時停車場に着御水原及び附近並に各沿線より出原せし數万の歡聲裡に御料馬車にて御陵地に向はせられ行列は鹵簿供奉員の外曾禰副統監以下統監府文武高等官列外にて隨從し九時三十九分健陵御休憩所(健陵齋室)に入らせられ御休憩ありた

▲山陵御展謁●●● 御休憩後袞袍、翼善冠、烏犀帶、白皮靴に御召換ありて隆陵丁字閣に御入謁展謁の禮を行はせられ畢つて陵上奉審後御小憩所入御小憩ありて隆陵を辭させられ健陵に入謁御仕祭あり終つて御休憩所にて御休憩後略裝に改めさせられ午后一時四十分御休憩所御出發大皇橋臨時停車場に向はせらる

▲模範場御巡覽●●● 皇帝の大皇橋臨時停車場に着あらせらるゝや先着の文武官場の內外に整列して奉迎申上げ午后二時三十分大皇橋停車場御發車あらせられ同四十八分西湖津臨時停車場に御着車あり此處より觀爲堤を經放水路御徒步途中抗眉亭に御小憩ありたる後勸業模範場に臨御暫時御休憩ありて後京畿觀察使以下在水原地方高等官模範農場及び農林學校高等官父老會及び日本居留民會總代等に謁を賜はりたる後本田農場長を聞召され同玄關より養蠶室、桑園架橋稻田を經て御徒步西湖津臨時停車場に御引返あらせられたり

▲西湖津御發車還幸●●●●●● 皇帝には同四時四十五分西湖津臨時停車場を御發車あらせられ官民數万の奉送を受けさせられ前路を無事五時五十分南大門驛に御安着發車と同樣日韓文武高等官其他市民の奉迎を受けさせられ六時二十分還御あられたり

▲南大門の奉送迎●●●●● 漢城內の官公私立各學校生徒及び各團体は何れも國旗校旗等を押立て南大門停車場附近より南大門內二丁目に至る兩側に整列し奉送し還幸の際にも同樣奉送したり

▲水原の奉送迎●●●● 皇帝の水原行幸は數十年來絕てなかりし盛儀なれば鐵道沿線の人民等は此盛儀を拜觀せんと同所に出で來りしもの頗る多かりしが同府に於ける日韓人は今回の盛儀に就て非常の熱誠を以て奉迎送申上げたれば皇帝も御滿足に思召されたるが如し

▲水原の雜沓●●●● 數十年來絕てなき盛儀なれば此盛儀を拜觀せんとて鐵道沿線より入込みし人は其幾何なるを知らず之れが爲め御通路は非常の雜沓を極めしも其筋の警戒嚴重なりし爲め一般に清肅に拜觀したり

▲沿路の警戒●●●● 昌德宮敦化門前より大皇橋臨時停車場に至る沿路は日韓巡査及び憲兵等數百名を配置し萬一に備ふると共に警戒頗る嚴重なりし

●阪谷前藏相

●●●歡迎會の催●●●

歐洲よりの歸路目下大連に滯在中なる前大藏大臣阪谷芳郎男は來る十日頃當地に來られ兩三日間滯在政治經濟の模樣を視察せらるゝとの事なるが聞くところに因れば經濟協會にては同會主唱の下に阪谷男爵歡迎會を開催せんと目下夫々相談中の由なり

●人蔘耕作者褒賞に就て

人蔘は韓國の特產物にして其の耕作は開城を主とし一時は其の一年の產額百万圓以上に達したる事ありしも惡政の結果漸次に其の額を減じたるが政府は其の耕作を奬勵して國產を增加するの方針にて曩に紅蔘專賣法を發布し蔘政課を設けて耕作法を研究しつゝあるが更に今回人蔘耕作者褒賞規程を定め成績良好なる耕作人に其の等級に從ひ金牌、銀牌、銅牌、褒狀中の一を授與する事とし九月三十日の官報を以て其の規程を發布せり右は品質の良好なるものを產出したる者又は收穫の多量なる者及び人蔘耕作に關する法令其の他の命令を遵守したる者を蔘政課に查し度支部大臣より前記の賞牌又は賞狀及び賞金を授與するものなりと云ふ

●仁川の撰擧會

仁川民團議員選擧は愈々來る十三日午前八時より民團役所に於て擧行することに決したり尙撰擧場裡の狀況を見るに時日接近せば地主派及日本町有志元老側等の間に多少競爭を見るに至るならんも目下の狀態に於ては何等競爭の樣子なく至つて平穩なり

民團議員新候補者 田村義次郞君

氏は明治二十年林權助、林田龜太郞氏等と共に當時の東京帝國大學を卒業し同期中屈に俊才の聞ゑ高かりき卒業後直ちに大藏省に出仕し爾來二十九年に至る迄滿十年の間一日と雖も倦怠の色なく孜々役々として職を奉せしが二十九年感する所ありて斷然官界を辭し轉じて臺灣中立銀行に入りしが同銀行は其の後幾干もなく他の銀行と合併し次で臺灣銀行と改稱せらるゝに及んで氏は之が頭取の重任を帶び銳意專心同銀行の爲めに盡力する所ありたり卅七年日露戰爭の開始せらるゝや志す所ありて京城に來りしがソレと同時に氏は殊更らに燒ゆるが如き胸腔の雄略大志を韜晦し爰に一介の貿業者と也爾來滿五ヶ年間鳴かず蜚ばすの陰々たる生涯を送り以て今日に及べり而して氏が昨今公私に關係せる任務は永樂町及び本町六丁目の衛生組長並に京城繁榮期成同盟會の會員等なりとす

民團議員新候補者 前田熊一市君

氏は肥前伊萬里の產なり賦性謹直にして寡言毫も輕佻にして浮華なる當世的紳士の態度なし弱冠にして鄕里の中學に業を修むるや二十四年九月飄然志す所ありて單身仁川に亘り次で幾千もなく伊萬里陶榮會社仁川支店の社員となるや敏腕の才名端なくも當時の主任をして賞嘆措く能はざらしめたり越ねて卅八年京城に來り更に陶榮會社京城支店主任の重職に就き得意の敏腕を振つて大に韓國に於ける陶器事業に貢献する所ありたり其の後三十三年に至り伊萬里なる本社が或る事情の爲めに業務を閉止するに至りしより氏は已むなく爰に京城支店を引き受け陶榮社と改稱し爾來勤勉力行之が經營に怠なかりし結果終に今日の如き盛運を見るに至れり而して氏が從來公私の事業に關係せしは三十二年淵上氏と相圖りて陶器組合を設けて之が主任となり同年商業會議所議員に推され更に三十五年京城民會議員に撰ばれし事等なり

民團議員新候補者 田中始一郞君

氏は福岡縣三瀦郡の出身なり韓國に渡航せしは今より十六年以前明治二十六年八月とす之より先き氏は鄕里福岡縣に於て時計商を營み居りしも商運終につたなくして失敗し頓て孤身京城に來りて現今の所に店を構へしが爾來堅忍刻苦の結果終に今日の如き成効を見るに至れり而して氏や昨年一般實業家の信望を負ひ推されて商業會議所議員となり現今に於ても依然其の職に當り居れり年齒漸く三十八前途多望と謂つべし

●鎭魂祭 來る十日午後一時より第十三師團長指揮下にありて韓國守備勤務中戰死したる軍人の爲め鎭魂祭を南大門內慶熙宮庭苑に於て擧行せらるゝに付當日は一般有志の參拜ありたりしと

●運輸同盟會認可●●●● 豫て仁川理事廳に認可を申請し置きたる韓國鐵道運送同盟會は一昨日認可されたり

●軍需品輸入額減少 陸軍軍需品の輸入額は去る六月京仁各紙が一齊に其の內部に於ける不正行爲を暴露したる以來逐月減少し來れることは屢々報導したる所なるが先月中仁川稅關を經過して輸入したる額を聞くに建築材料を除き唯だ飮食品貨及其他の雜貨の額は僅かに一万六千圓なりしと

●三消氏晩餐會 三浦理事官は一昨夜日本人俱樂部に於て晩餐會を開かれたり當夜招待に應じ出席したるは和田前議長外前議員の諸氏中村會頭外商業會議所議員の諸氏桐原警視熊谷民長各銀行家各有志家及四新聞の代表者等四十余名にして始めに三浦理事官の挨拶あり次に熊谷民長の答辭あり續て月叶頭本會我中島四氏の卓上演說あり玆に食事を了り別席に移りて各自氣焰を交換し歡笑の間に散會したるは殆んど十時頃なりし

●黑田氏茶話會●●● 老人星山莊主黑田太久馬氏同夫人は來る六日知友を招きて茶話會を催すとの事なり、因に同山莊附近は目下松茸盛んに生出し居れりと云ふ

●統監府會計檢査終了 曩に入京し會計檢査に從事せる古川檢查員一行は九月三十日を以て統監府會計檢查を終了せり

●鐵道管理局の會計檢査●●●● は二日より古川檢查官會計檢査に從事せり

●仁會委員會●●● 仁川商業會議所に於ては過日の總會に於て月報及日報を發行することを決議したるが尙其發行方法等については委員會に於て決定すべしと

●在韓民團敎育及保育の狀況●●●●● 本年七月末調査に係る帝國居留民敎育及保育の狀況左の如し

▲小學校六六(內指定學校一四其他五五)兒童數九五六〇、男五、一〇二、女四、四五六▲高等女學校四(指定學校一其他三)生徒數三二三▲商業學校一(指定學校一)生徒數一〇〇▲專門學校一、生徒數二八▲幼稚園七、兒童數五九三男二九四女二九九▲計校數八十二、生徒總數一万〇五百九十四人、內男五千五百二十四人、女五千〇七十人

●中島參謀の出張 軍司令部中島參謀は第六師團韓國內鐵道輸送の爲め釜山に一日出張せる

●江木憲兵少尉の歸任●●●●● 黃海道方面視察中なりし江木少尉は一日歸任せり

●監視署視察●●●● 新設監視署第二回實地視察員釜澤仁川稅關監視官は來る十日頃廣川商浦方面に向ふ筈なり

●馬山小學生の旅館 馬山居留民團立尋常高等小學校高等科男女生徒三十四名訓導安倍正治德久悄太郞氏に引卒せられ修學旅行として近く京城に來る由

公人私人

▲荒木美作次(大阪鐵工所技師) 一昨夜入京巴城館投宿

▲遠藤富之助(財務監督局財務署主事) 一昨夜入京三日月旅館投宿

▲中桐寮太郞(統監府技師) 一昨日大邱へ向け出發

▲川上繁治(平壤手形組合理事) 一昨日歸途につく

●近事片々

▲米國●● 大統領の撰擧競爭愈々激甚となる之が統監府の監督ならば直に官選大統領擧

▲ルー●● ズベルト氏競爭渦中に投じて熱心タフト氏に後援す他より見れば隨分奇觀也

▲民主●● 黨何時になく黨勢振ふ其勝敗知るべからずと雖も恐らくは共和黨の勝ならん

▲大鵬●● 子都督廢止論をなす大に同感統監の如き改正する要ありとするは是亦同感也

▲總領●● 事の資格を以て埃及を司配したるクローマー卿に見るも大勤位公爵は過ぎる

▲手腕●● さへあれば位置の高下は餘り論せざるがよし今の世は全く實力の時代なれば

▲伊公●● の如き位貴き人は却て元勳として奧深く控へ居るこそ奧ゆかし何とでムるや

▲若手●● の敏腕に自由手腕を揮はしたならば却て目醒ましき成蹟を擧げ得べしと思ふ

▲元老●● 連中にも此雅量なかる可らず如此にして社會は進步するぞかし老婆心は無用

▲東拓●● 韓國委員も近々歸城するとの事果して與庭より日本に飛喜し來るべきや否や

▲珍客●● として鄭重なる取扱を受け踏を見物して喜びたらんも稅慨は些と六ケ敷き也

▲御馳●● 走をなし優待すれば喜ぶも之が爲に日本を德とするが如き事なきは韓人の常

▲威壓●● を受けざれば麁從すべきものに非ずとは韓人特有の外交術優待の如き益なし

▲渠等●● 爾來如何なる言動を採るべきや其結果を見て或る向きでは始てフヽンと肯く

▲李軍●● 相亦か渡日せらると之れ韓太子の誕辰祝と陸軍演習觀察の爲なりと借もく

▲取替●● 引替の渡日何等の効益あるべき乎之が統監政治の與の手にや冷評する者あり

▲軍相●● 李秉武は曾て超重臣と共に久しく東京に居れり今や大臣として堂々と渡日す

▲金允●● 植副總裁の電報は誤なるべきも副總裁として員に備るには或は適任ならん乎

▲參政●● 大臣も爲し元老として信望ある前樞院議長徐正淳逝く享年七十四歲の高齡也

▲獨逸●● は海軍擴張案を議會に提出す之に依て見るも獨逸が遠大の企圖推測し得らる

▲カイ●● ゼルの雄圖勃然軍備を充實して大に殖民政策の發展を計らんとするの狀歷々

▲陰曆●● 除去の確定は大によし舊だ新だと何時迄も唱へ居るは非なり陰曆全廢すべし

▲併し●● 老人連は一寸困るだろう外に保存の議を提出する者あるべし禮儀撲滅[illegible]

大邱令市の景況（續）

甲午以降世運の進歩に伴ひ海陸の交通發達し到る處に貨物直接の途開かれ各商家の仕入品も特に此の市場に待つの必要減じたると監督賀商の甲午年度より全廢せられたる等の結果逐年市場の衰退を來し爾三年來市場集散の貨物は當時の二十分の一にも過ぎざる有樣にて此の令市のため此の地に吸收せし利益は實に巨額なりし如く由來此の地貨産家の全國中に秀でたるは素より其の土地肥饒にして農産の豐多なるに原因せるは勿論なるも蓋し又此の令市に於ける賜物なり

▲市の起源沿革は概要以上の如くにして前此の開市と監督の關係に就ては從來監督は特に所屬書記中より其の主案者を定め取締及び藥品買上げを擔當せしめたるものなるが過般の告例廢止以來全く夫れ等の手續を廢止し目下名稱に於て令市の名目を存する外何等他の市場と異なるを見ず但し令市に就ては監督若くは郡守等より課税したる事なし

開市の時期も從前に在ては一定し居りしも甲午以降別に官廳の命令干渉無く商估間の任意に委せられたるため定まりたる期日無く常に多少の遲速あるを免れざるも春季に於ては陰暦四月旬晦間、秋季は十一月旬晦間を以て略ぼ期間とせり

市場に參集する各商人中には何れも古來の慣例に依り組合の存するものあり乃ち椴商（布帛等）には右社、負商（土物木物）には左社なる名稱の下に殆んど全國に渉るの組合あり其の他糖商、綱巾商、鍮器商等は何れも任房と名稱せる各組合ありて各京部の允可を受けて之を組織し居りたるも其の弊害多端なるを認め甲午の議政府は全然之を禁止解散せしめたるも爾來何れも隱然之を組織し尚全國到る處に其の組合の存する模樣なり

今昨年秋季に於ける大邱令市の取引高を調査するに左の如し

區別	店數	取引高
綿店	三六	二〇、五三三圓
蜘中店	三五	三、四四五
苧店	一七	三、二六八
毛物房	一一	三、六〇七
聚毛店	二	二〇四
裁羅店	九	一、一六八
鍮物店	六	四、一〇三
漆盤店	六	六四四
笠子網巾冠	五	五、一六五
紙物店	五	一、一五五
筆墨硯	六	一、三六八
書冊	五	二、一七〇
烟竹	九	三、一六八
草房	一八六	四八、三三六
服纏店	五	四六六
月鏡店	不詳	三、二〇〇
鞋店	二	三二九
異燼、鐵	三	三二八
火爐	三	二三八
木物店	三	一三五
衣類店	五	二、四〇八
屏風店	四	三三〇
籠子竹器店	三	二一五
入子店	三	二五三
三紙油器店	四	四八〇
總計	三九九	六五五、四三三

仁川電氣の失態

過日機關破損の爲め電流を供給するを得ず仁川全市をして終夜暗黒世界と化せしめたる仁川電氣會社は其後專ら機關修繕中なりしに不拘一昨夜又々失態を演じたり例日午後六時より電流供給を開始するに一昨日日暮れて二時間を經たる八時に至るも未だ點火せざる爲め市民は何れも大狼狽を來しランプ蠟燭を用意し辛くも當座の間に合はせたるが中に尤も打撃を受けたるは新聞社工場、料理店及商店等にして何れも電氣會社の無責任を憤り居れり

暴徒歸順者數

昨年十二月より本年八月迄の憲兵隊及警務局に着報の歸順者數は京畿道九百四十六人忠清道五百九十二人慶尚道七十人江原道千六百三十二人咸鏡道二百二十二人黄海道千四百四十六人平安道五十九人全羅道二百〇四人總合計五千三百七十五人此外觀察使郡守及宣諭委員へ八百七十九人及警視廳へ三十六人の歸順者ありたり

人面牛身の怪獸

此程大分縣大野郡東大野村大字矢田四百四十六番地農後藤萬吉方飼養の內國種黒毛八歳の牝牛が產み落したる一頭の犢は人面牛身の世にも不思議の畸形にして前肢は割合に短く耳もまた人間に似て細く短く尾は只だ株のみを存して毛なく陰莖と睾丸とは全く人間に酷似し全身は黒毛を以て蔽はれ居り生後既に十日あまり至極健全に成育しつゝあり之れぞ俗にいふ件ならんとて同地方にてはなか〳〵の大評判にて日々の見物人引きも切らぬ有樣なりといふ

キーさんの憤慨

妓生は今まで雇主の妾として內幕は例の通り娼賣を行ひ其筋に於ても別段此れに對し制裁する處ながりしも各警察署にては一昨日各署に呼出し此后では斷じて娼賣を嚴禁し從前行はれたる雇主一人の屆出のみには許可せずとの上命ありたるより各署に集りたるキーさんは何れも其面倒を主張し團結して何等かの陳情書を提出する由なり

春木磯吉起訴せらる

去月二十九日南大門通り電車內に於て龍山武力職高橋重之助を切りつけたる春木磯吉の創傷事件に就ては既に詳報し置きたる通りなるが高橋は翌三十日春木を相手取り當理事廳へ告訴なしたるが春本は一見記錄其他總取當等により證據充分なりと認められ毆打創傷として檢事局へ送らる尙春本は八月十五日午後三時御成町下宿高村屋の前路に於て自己の雇人嘉源隆を仕事上の關係より數々罵口をふっかけたる末其場に有り合せたる割木を以て隆を毆打し胸部及左手に負傷せしめ疾病休業十日に至らしめたりと云へば之れ又隆よりの告訴により毆打創傷罪として裁判を受くる筈なり

賣掛代金の拐帶

廣島縣平民龍山旭橋通森方雇人田村又一（三）は以前群山本町通米穀商橋本央方に雇はれ居りし中七月六日橋本より依賴され得意先なる同地水田源三郎外八名に對する賣掛代金五十三圓五十九錢を取立て之を同地の料理屋にて費消し橋本方を逃亡し龍山に來り前記の森方に雇はれ居りしを橋本より一昨日理事廳に告訴す

醉作れ

一昨日午後七時頃銅峴分署の門前に一人の韓人作れ臥し居るにぞ早速取調べたるに此者は金宗元といふものにて酒を飲む筈で飲んだ所却て酒に飲まれた弱坊なりしこと判りしかば醉の醒めたる後放還されたり

醉漢の寢込

南署惠民洞統戶下詳方有榮（二九）が一昨日午後九時泥醉のまゝ山林洞四十八統十二戶崔錄九（三五）方へ來り寢込みたるまゝ身動もせぬので其筋に訴へられて引致され醒後嚴重なる說諭をうけて引下る

玉が喧嘩を轉ばす

岡山縣平民竹園町一丁目十二番戶玉轉業片山嘉助（三五）の店に一昨日午後六時詩谷二十六統一戶金昌元（三）といふが玉轉がしに來り一向大景品に轉び込まぬ爲め昌元は之れに五十錢以上をも出したるも景品一つも取れぬ口惜さに一言二言景品が惡いとか何とか惡口を吐いたので嘉吉も癪に障つたと見へ茲に喧嘩を始めヤツサモツサと摑み合ひ居りしを銅峴分署に引致せられ取調の上双方とも大目玉を頂きて引下れり

●南山本願寺說教　本日は土曜日に付午後八時より說教あり

●龍山本願寺說教　龍山西本願寺にては本日午後七時半より鎌田開敎使の說教あり

●辻屋の紀念賣出し　本町二丁目和洋雜貨商店辻屋は去る二十七年本町三丁目現今の支店を開店し本年を以て十五年の星霜を閱し今日の隆盛を見るに至りたるが同店に於て開店十五年紀念の爲め一日より五日迄福引景品附大賣出をなしつゝあるが購買者に對し三圓に付抽籤券一枚を呈することゝして來る十日各新聞社府立會の上正確に抽籤を擧行する由尙は福引は一等百圓より數千等まで空籤なしとのことなり

鶴座替狂言

同座本日の替り狂言は「三日月お六」七幕にして場割役割は如左

魚屋新助賀家、八幡樓店先、同家の座敷、同家の裏門、櫻木の部屋、魚屋新助宅、裏田甫、赤坂見付、於六の下宿、橋場の渡場、新助長屋、胡蝶庵桑五郎の宅

娼妓木櫻實はお綾（野村）舟頭多十警部大內（石井）娼妓小桜（高尾）魚屋新助（內藤）若者喜助（土田）猩の三次（松村）近藤勇（橋本）胡蝶庵桑五郎（佐海）娼妓白菊實は三日月お六（木村）

京城座の巳が罪

京城座に於ける石見一座は每夜仲々の好人氣を得つゝあるが本晩の藝題は「巳が罪」十二幕にて其場割は左の如し

（序幕）畑子の宅（二）同別宅（三）元歌子宅（四）箱根溫泉（五）同家座敷（六）吉妻屋（七）平磯海岸（八）一本松（九）用岩（十）死体深着（十一）作兵衛（十二）叢塲

重なる役割は左の如し

和田作兵衛（石見）醫學博士塚口廣三（稲葉）子爵櫻戸隆弘（尾崎）和田玉太郎（桂木）れみの（横山）院長松山（山岡）遠山歌子、乳母はま（松咲）漁師子供官太（松村）巡査杉原、吉田島子（松岡）櫻戸正弘（子役小石見）番頭忠八（瀬川）女中れ虎、外人モリソン（瀾）

同可娛欄（七）

●都々逸（三十日の本紙參照）　魚友痴史

▲今紫の僞名
白ばつくれたよ今紫は官羅に眞赤な嘘をつく

▲九十九の涙
獨り寢て居る隣室の客の耳に九十九の忍び泣き

▲茶羅子の寶
人に見れて妾や口惜わ祕蔵なたからの玉に疵

天氣豫報（自二日午後六時至三日午後六時）

西の風晴

二日午前六時各地氣象概況

氣壓の配置は依然黄海方面に高く日本海北部に低く陸は概ね靜穩なれども沿海は北の和風吹き各地快晴なり

新講談

女俠秋瑾の傳（四）

「馬鹿ッ。それは臼砲の弾丸ではないか。それが何うして山砲に間に合ふものか。」

「何を愚圖々々して居るかッ。直樹の藥包を野砲に装塡しやうと思ふのが間違だ。」

「早せぬかと云に。遅々となら猫でもするッ。」

徒らに氣ばかり焦つて居る處ろへ、緝捕營の杜寄林、中軍の劉利貞、知縣の勞文琦等が、各兵勇を引て來て、瞬く間に軍器庫を包圍した。

徐錫麟は「ソレッ。」と云ひさま、陳伯平、馬定瀾の兩人と共に、正門の防禦に當り、諸生を指揮して裏門其他要所々々を固めさせたが如何せん、衆寡の勢、到底も敵すべくもなかつたので、陳伯平、馬定瀾の兩人相次で斃れ、正門は徐錫麟一人となつて了つて、頗る苦戰狀態に陥つたが、尤もこれまでに勝勇六人までを銃殺したが、官兵は容易に退くべくも見えぬ。元より鬼神にもあらぬ徐錫麟、今ラノ＼は氣力も續かず、はこれまでなりと意を決して、急に退いて軍器庫を後に接する隣屋の庭に飛び下りた。如くとも知らぬ緝捕營の兵勇等は、已れ徐錫麟を生擒にして、三千兩の恩賞に與らんと、先を爭つて正門から亂れ入つたが、不思議や徐錫麟は何地行きけん、影も形も見わないで、只だ瓦石の庭一面に散亂するのみ「素破こそ逃げたり、逃すなッ。」と犇き立て、搜し廻る。

此方は徐錫麟、長時間の苦戰に力盡きて、隣家の一室に身を潜め、暫時息を入れて居る處へ、バラ／＼と這入つて來たのは勞文琦、劉利貞、杜寄林の三人、去れど徐錫麟は最早や抵抗する餘勇もない、一二口爭を交た後、從容／＼縛に就くを餘儀なくした。

「遺憾。殘念ッ。」

これは此の時徐錫麟の口から漏れた一語、後は下唇を嚙んだまゝ少しも物云はぬ。軈て督練所に引立てられて見ると、三十名ばかりが學生が珠數繋ぎとなつて居る、併しこの内には破の陳伯平、馬定瀾兩人の姿が見えぬ。即ち兩人は辛く一方の血路を開いて逃げ終せたのでございます。

其明で最初に督練所の白洲に引出されたのは徐錫麟。一段高き所には布政使、按察使其他の大官が居並んで居る。時に審問に口を切つたのは布政使でございます。

「徐錫麟、恩巡撫の其方を待つこと、甚だ厚かつたにも拘らず、其方は何が不足で恩巡撫を殺したか。」

徐錫麟の眼は充血て居る、渠の口は殆んど裂けんばかりである。

「御同役貴殿は何んと考へ召さる、恩巡撫を徐錫麟が短銃で殺したのを見ますれば、革命黨の手には充分武器が行き亘つて居るものと考へまする、これと申すも彼の暴逃仙などの輩が、密かに武器の輸入を致せばのことでござれば、急にその手配りに及ばずは相成りますまい。」





左ノ諸氏ヲ民團議員候補者ニ推薦ス

西部選擧區

和田常市
田中始一郎
曾我勉
中島司馬之助
增田三穗
前田熊三市
三好和三郎
進辰六馬
城勝太
森次

東部選擧區

石井新
濱野德次郎
梶原末太郎
田村義次郎
中村再造
釘本藤次郎
山口太兵衛
古城管堂
菊池謙讓
關繁太郎

（イロハ順）

民長官撰令撤廢期成同盟會

●新聞料 ▲一ケ月金三十錢 ▲六ケ月前金壹圓六十錢 ▲一年前金三圓 郵税一
●廣告料 ▲五號活字十九字詰一行一回金十錢 ▲二號活字十九字詰一行金五十錢
發行兼編輯人 秋山忠三郎
印刷人 高木久馬太
發行所 京城 京城新聞社